集合型ＴＥＫＵ-ＴＥＫＵ２０２３★作家のアトリエ建築を訪ねて（活動記録＋評価結果）◆

企　画■作家のアトリエ建築を訪ねて～目白・落合・中井・長崎の住宅地を歩く～
日　時■２０２３年 8月２６日（土）１３時１５分～１８時（集合型まち歩き）
コース■山手線／目白駅～徳川ビレッジ～吉村順三記念ギャラリー～★中村彝アトリエ記念館～おとめ山公園～聖母病院～★佐伯祐三アトリエ記念館～染の里おちあい二葉苑～エリンコートHIPS～町屋壱番＋弐番～四の坂テラス～★林芙美子記念館（居宅＋アトリエ）～旧島津家住宅アトリエ～目白文化村住宅地～トキワ荘通り商店街（旧清戸道）～★トキワ荘関連施設（お休み処＋漫画ステーション＋昭和レトロ館＋マンガミュージアム他）～岩崎家住宅～西武線／東長崎駅　（★＝評価対象）
参加者■〇大竹　亮、磯田尚子、上野朋子、加藤仁美＊、栗原　徹、高橋　謙、原　久子、藤井正男＊、藤井幹也、溝辺正浩、村松紀明、山下浩一＊（以上１２名、〇コーディネイター、＊集合型街歩き以外で参加）
企画主旨■東京西北郊外だった目白・落合・中井・長崎地域は、神田川・妙正寺川北岸の丘の上に早くから開けた住宅地です。今回は、現在も保存公開されている洋画家の中村彝画伯のアトリエ、佐伯祐三画伯のアトリエ、小説家の林芙美子氏の居宅＋アトリエを訪ねるとともに、近年に復元整備された漫画家たち（赤塚不二夫・石ノ森章太郎・手塚治虫・藤子不二雄・水野英子ほか）が住み創作したトキワ荘アパートと、商店街に並ぶ一連の関連施設を歩きます。また、周辺には目白文化村や徳川ビレッジなどの超高級住宅地、吉村順三ギャラリーや島津一郎アトリエ、聖母病院などの名作建築、そして染色工房や音楽サロンなどもあり、文化の香り高い地域特性を実感させてくれます。作家たちの往時の創作活動に思いを馳せるとともに、かつての地域の姿を想像し、保存復元公開施設を活かした今後のまちづくりを考えてみましょう。

１■中村彝アトリエ記念館　　評価:4.40　内訳:AAAAAAABBB－

評価A◆アトリエ内の外光の明るさに、創造的な空間を感じた。保存状態が良い。画家の名前を知らなかったけれども、落合の作家たちに影響力のあった人だったことがわかった。
評価A◆規模は小さいながら、映像資料等も駆使して見ごたえのある内容。建物の特徴的な外観と庭を含めた景色が周辺の住宅地から見るとオアシスのように見える。
評価A◆住宅地の中にひっそり残り、北面のアトリエ建築と陽光あふれる庭の関係も良い。夭折が惜しまれる。
評価A◆高台に位置し明るくて開放的。庭も広々していて芸術活動にはうってつけであることが判る。建物の保存状態が良いため心地よい時間を過ごせた。強いて言えばこの施設に至る道案内の表示が不足していた。
評価A◆庭も残され、農村であった頃のこの地域の雰囲気も感じられるアトリエ。
評価A◆紹介ビデオがあり、アトリエの様子もリアル。また付属棟の展示があることで、より理解が深まった。
評価A◆（復元ではあるが）主が制作・生活をしていた当時の様子をよく残しており、興味深い。北に面して高く広い窓を持ち、画家のアトリエとして理想的なレイアウトである。また、管理棟が別途に設けられ、管理と展示の場所として整えられている。夭折が惜しまれる。集合写真を撮った庭が、明るく広くて、なにか救いを感じさせる場所でした。
評価B◆住宅地の中にある小さなアトリエ建築だが、独特のデザインのアトリエ建築や庭園が住宅地に良く馴染んでいる。
評価B◆良かったと思います。
評価B◆こぢんまりとした佇まいが素敵でした。

目白の住宅地にひっそり佇む中村彝アトリエ

当時の様子を再現展示したアトリエ内部

２■佐伯祐三アトリエ記念館　評価:3.80 内訳:AAAAABBBBC－

評価A◆住宅密集地の路地の奥にひっそりと佇んでいる。ここだけは緑豊かで、一角が公園としても使われ、住宅地のオアシスとなっている。アトリエ建築は垂直性が強く、隣の増築小部屋との対比が印象的だった。

評価A◆画家の業績を映像等を交えて十分に解説している。また、建物についても画家自身が手掛けた増築部分の小屋組みを展示したり、かつてあった住宅部分を図面で解説したりとわかりやすい。以前訪れたときはアトリエだけがぽつんとあったので、住居部分を含めると結構大規模だったことを今回初めて知りました。

評価A◆新宿区内とは思えない「木立のなか」のアトリエは良い雰囲気。建物の保存状態も良く展示をじっくりと見られた。仕方ないかも知れないが、管理の方が暇そうで気の毒。

評価A◆パリに行くには家族で船で２ヶ月、暮らし向きは大変だったでしょうね。中村彝と同様に、若くして病み客死しています。このアトリエは佐伯にとって安らぎの場所だったのでしょうか。一人残された夫人は、どんな思いで日々を過ごしたのでしょうか。往時を偲んで、想像の羽根を拡げさせてくれる佇まいでした。

評価A◆テラスがあるのは便利かもしれないが当時の感じではなく、当時と現代をどうマッチさせたら良いのか。

評価B◆良かったと思います。

評価B◆アトリエがとても気持ちがいい空間でした。

評価B◆見学できるアトリエの隣にも部屋があったようだが、そちらが見られなかったこと、付属棟での紹介が中途半端だったのが残念であった。

評価B◆青い三角屋根の外観は特徴的で、保存を祝福したいが、失われた部分が大きいことを残念に思う。

評価C◆もともとは住居とアトリエが一体だったようだが、住居部分が無くなってアトリエだけが残っており、テラスに面したファサードが味気ないので、もう一工夫したほうが良かったと思う。

落合住宅地の路地奥にある佐伯祐三アトリエ

往時のこの付近の地図や風景も建物内部に展示

３■林芙美子記念館（居宅+アトリエ）　評価:4.00 内訳:AAAAABBBBB―

評価A◆建物の全体が当時の状態をよく残しており、往時の住まい方、創作の舞台としての使われ方を偲ばせるしつらえである。庭には飛び石が多く敷きつめられており、これもたたずまいをより豊かなものに見せているが、普通に歩くにはややもするとけつまずきやすく、足元に気をつかわせる庭である。（伊達美徳大兄を通じて知った）山口文象という建築家の作品に触れることができた。芙美子がお気に入りだったという台所の『人研ぎの流し』は、もっとよく見てくるべきだったかな。

評価A◆居宅とアトリエ全体を感じることができた。山口文象の建築が秀逸であり、非常に心地の良い記念館。

評価A◆居宅とアトリエがあることで、当時の暮らしが垣間見られて（感じられて）良かったです。

評価A◆高低差があり、かつ暮らしを大切にしたすがすがしさのある住まいで良かった。

評価A◆有料見学施設であったが、それに値する見ごたえのある展示がなされていた。母屋にも入室できて往時の雰囲気を感じられると更に良かったのだが。

評価B◆庭を含めて全体がよく保存されていると思う。欲を言えばもう少し内部に立ち入ることができたら良かった（白洲次郎・正子の武相荘と比較しての感想）。

評価B◆斜面の緑と坂道に風情がある。邸宅も立派で保存状態も良いが、もっと内部へ入りたいところ。

評価B◆斜面に建つ邸宅を記念館にしたものだが、和風の建築や緑豊かな庭園など、とても良い雰囲気が醸し出されている。

評価B◆生活の仕方や庭の眺めや執筆の様子を彷彿した。

評価B◆良かったと思います。

中井の住宅地斜面に立地する林芙美子記念館

旧宅とアトリエ全体が保存公開されている

４■トキワ荘関連施設（お休み処＋漫画ステーション＋昭和レトロ館＋マンガミュージアム他）

評価:4.09 内訳:AAAAAABBBBB

評価A◆すでに４０年近く前に取り壊された戦後木賃アパートを公園内に再現整備しただけでなく、商店街の町家（旧米店）や看板建築（旧百貨店）など空き店舗を活用して街に展開しているのが面白い。ただ、どの施設も管理が厳格そうで、自由に休憩・滞在できるスペース（飲食店も）がもっとあるといいと思う。

評価A◆トキワ荘は、再現が緻密で、遊びがある（あえてきしむ階段、笑える縮小模型）。トキワ荘のある通りの各所に、漫画や昭和に関連する施設や店がある。トキワ荘には、再来（または入り浸り）を促す仕掛けがほしい（例えば再現ＥＤＥＮ併設）。

評価A◆トキワ荘の漫画家たちとかつて暮らした商店街のイメージをうまく現在につなげている。展示内容が重複する点もあるが、全部を回らなくても全体像がある程度わかるという意味では、訪問者にとって便利。

評価A◆昭和レトロ館とマンガミュージアムにはエレベータがあり、配慮に感謝。マンガミュージアムは秀逸。全盛期を彷彿とさせる行き届いた設えである。「よつばと！原画展」は、今日のコンピュータ化された作画という変化を詳しく解説し、時代の差を説明しようと努めていた。施設が連なる商店街だが古いバス通りであり、歩車分離もできておらずそぞろ歩きには不向き。各店舗も元気がなく、東長崎駅に近いあたりには大きな古民家もあるが、「通り」としての活気に欠ける。過去の遺産に寄り掛かるだけではなく、もう少し今日的・現在的視野での工夫が必要ではないか。車道の一方通行を生かして歩行者空間を整備し、新たなカフェやレストラン、おしゃれな店などの進出を誘発しては。（横浜・馬車道などを参考に）

評価A◆人を集められると思いました。

評価A◆トキワ荘だけではなく、地域と連携していることは良いが、レトロになってしまい、若い世代とのつながりを今後どうしていくか。

評価B◆トキワ荘を使ってのマンガ主体の町起こしは楽しく成功していると思うが、昭和レトロだけがテーマだと対象年齢が限られ、今後の発展が厳しくなってしまうかも（特別展では今時のアニメを扱っていたが）。

評価B◆実際にあった場所でも良かったのではないか。とはいえ、テーマパーク的に整備されているのも良いと感じた。建物に併せて、漫画の紹介をデジタルでできれば、空間と当時の活動をリンクして見せることができるのではないか。

近くの公園内に再現されたトキワ荘ミュージアム

昭和レトロ館に展示された木賃アパートの生活

評価B◆トキワ荘は貴重な保存建物であった。トキワ荘の中でどのような生活が展開されていたか、空間その関係についての説明もあり、感銘を受けた。関連施設間の関係性が見えるような道路景観となっていると、もっと魅力が感じられるのではないか、と感じた。
評価B◆トキワ荘とマンガをテーマにしたまちづくりを進めており、トキワ荘を再現したマンガミュージアムなどなかなか面白いが、まだ街全体のムーブメントにはなっていないように見えた。
評価B◆個々の施設をつなぐ仕掛けがもっとあると良いのでは。

５■上記４施設のほかに、印象に残った場所など

目白庭園★住宅地の狭い道路を歩いてゆくと、緑と水の庭園空間があるという意外性が面白い。
徳川ビレッジ★東京都心では戸建の高級賃貸住宅地はとても珍しいと思う。
徳川ビレッジ★住まうことにおいて何が快適かということを考えることができた。
徳川ビレッジ★すごい！の一言です。
徳川ビレッジと目白文化村★質の高いエリアがあることによって、近隣の町の品格や文化度を上げるけん引になっていると思う。
徳川ドミトリー★徳川ビレッジにあった女子学生寮が取り壊されていたが、中井の坂道に沿った住宅地に移転建替えされていた（斜面緑地のしつらえが上手い）。男子学生寮の和敬塾ともども、伝統が続いていた。
おとめ山公園★大きな樹木や湧水という地域の記憶を、住民運動によって保全したことを誇りに思う。
おとめ山公園★かつてあった雑木林の雰囲気が感じられ、暑い夏は爽快。
おとめ山公園★区立公園でこれだけの規模を持っているのは立派。
落合という地名と河川★妙正寺川が神田川に合流した場所であることから地名になったが、古地図をみると合流点や川の流末はその後幾度か変化しているようである。
中井あたりの妙正寺川★（雨上がりのためもあってか）想像していたよりも深く広く、水量も多かった。染め物に使われたという話に頷ける流れである。
染の里おちあい二葉苑★妙正寺川に染物屋が集積しているとは、まったく知らなかった。
染の里おちあい二葉苑★川での水元や藍染体験などによって、染色文化のおもしろさを積極的に発信している。
染の里おちあい二葉苑★川沿いという立地に即した染色業が今は外観からはわかりにくくなっているものを、再認識できる施設として、まちづくりの点からも重要だと思う。
染の里おちあい二葉苑と川沿い長屋★染めの暮らしがあったことがわかる。歴史伝承館的ではなく、現代風にアレンジしているのが良い。
妙正寺川沿いの町屋壱番＋弐番★こうした伝統町家群が都内に出現していることにびっくり！
狭隘な路地群★大邸宅や老朽アパートの間を、老木・大木に挟まれながら屈曲・アップダウンする路地。行き止まりや私道・階段も多く、通過交通が極めて少ない。幅も不均一で、ところどころ砂利敷き。自然石の側溝など変化に富み、直線道路に慣れた新興住宅地とは成り立ちが違うことを、寡黙に主張している。
地下鉄大江戸線中井駅★広い山手通り側でなく、狭く庶民的な駅前商店街の側にメインの出入口がある。
旧島津一郎アトリエ★林芙美子記念館近くに残る洋風建築。住宅として利用継承されているのが何より。
目白文化村★宅地が細分化されて建て替えられ、往時の雰囲気をとどめない場所も多いが、中井から長崎への一帯は立派な邸宅街の面影をとどめていた。
岩崎家住宅★旧目白通り（清戸道）のバス通りに沿った豪壮極まりない屋敷。江戸農村の名残りを実感。

緑豊かな目白の超高級住宅地・徳川ビレッジ

斜面緑地を住民運動で保存した御禁止山公園

落合の密集住宅地に並ぶ町屋壱番＋町屋弐番

妙正寺川沿いに残る江戸染色工房・おちあい二葉苑

６■今回歩いた目白・落合・中井・長崎の住宅地について　　評価:3.91　内訳:AAAAAABBBBC

評価A◆計画開発された超高級住宅地から、自然発生的な密集市街地まで、丘と谷という地形とあいまって、多彩なエリアがモザイク状に連続している。歩いても心地よいし、変化があって楽しく、住みやすそうでもある。そうした中で、今回訪問したアトリエ建築群は、小粒ながら街のスパイスとなっている。

評価A◆豪邸から零細老朽家屋までバラエティ豊か。真新しい家は少なく、戦後のモダンハウス（竪羽目板・緩傾斜鉄板葺きの屋根）らしきシンプルな佇まいの家が少なくない。庭の巨木群は管理が大変と思うが、そこは古い屋敷町の矜持か。急坂や階段もあり、高齢者には優しくない。ところどころで相当規模の建築も行われており、このまちも徐々に変化していくのだろうか。

評価A◆戸建住宅を中心とした街並みが程よく整っていて感動した。住宅地の道路も広すぎず狭すぎず、スケール感と落ち着きがあり、適度な緑もあり、郊外の計画的戸建住宅地とは異なる魅力を感じた。

評価A◆場所によりそれぞれ雰囲気の違う住宅地だが、全体的に見て清潔で荒れたところがなく感じられて印象がよかった。

評価A◆緑も多く、大正、戦前の東京郊外の暮らしと地域の物語が残っていて良い。

評価A◆あまり歩いたことのない地域でしたので、参考になりました。

評価B◆各々の街で異なる個性を持っているが、全体としては高級な住宅地のイメージであり、個々の住宅の植栽や起伏のある地形などによって緑が多く感じられ、道路が狭いものの環境は良さそうに見えた。一方、新しくできたミニ戸建ても多く、敷地の細分化が進んでいるのが気になるところ。

評価B◆学生時代、中井に住んでいたが、今回見たエリアに質の高い建築物が多い住宅地であることを初めて知った。木造密集住宅地であるが、概ね良好に維持、建替えが進んでいると感じたが、残念ながらミニ開発もところどころに見られたのが残念。難しい課題と感じた。

評価B◆どこもそれぞれに幾つかの「御屋敷」が残っていて、それがその地域の雰囲気を持ち上げていた。少しでも残っていることが大事。中井は商店街主体の庶民の町ですね。

評価B◆格差が大きい。

評価C◆

林芙美子記念館から目白文化村住宅地へ上る四の坂

目白文化村住宅地の往時の雰囲気を伝える邸宅

７■作家のアトリエ建築の保存再生と公開活用は、どのようにすれば効果的でしょうか。
また、それらを生かしたまちづくりには、どのようなことが考えられるでしょうか。

（自由記入）

●往時の作家の活動を彷彿とさせるようなリアルさとともに、当時の町の良き環境を伝えるような庭とか緑なども重要と感じた。今回の４施設はその点で合格点（優等生）だと思う。まちづくりとしては、地域内のさらに多くのアトリエ（吉村順三や島津一郎など）を利活用したり、空き店舗の転用で関連施設を整備したりして、この住宅地には小規模な低層建築が似合うということを人々に意識づけることであろうか。

●アトリエでは、その場所を訪れなければ分からないリアルなもの、作家の世界観を感じるものを見たいと思う。作家活動を支える地元の人たちや作家を好む人たちが、楽しんで自生的に、施設や店を経営し集まる場所には、力がある。

●アトリエや邸宅をそのまま残すだけでなく、当時の活動をよりリアルに見せられるかがポイントだと思った。そういう意味では、デジタル技術を使って、よりリアルに短い時間で分かりやすい解説をできるように工夫すべきと感じた。そして、その場所として選択されたこのエリアの雰囲気をどう守っていくかが課題である。

●アトリエ部分限定の保存でいえば、当時の雰囲気を感じられるように資料展示はスペースを取りすぎない工夫が必要。その点で映像展示は省スペースでよい。活用の面でいえば、小規模で積極的な活用が難しければ、アトリエ周りの空間を周辺住民の憩いの場としての整備でも良い。

●アトリエは周囲の住宅と規模・外観に大きな相違がなく、溶け込んでいます。新宿区の保存・公開と、それを通じたまちの魅力の発信にかける熱意を感じます。またアトリエ群も、時代に受け入れられて今日があると思います。今後は、より若く広い都民・区民・他県民にアピールする工夫も必要とは思いますが。その点で展示内容・手法などのブラッシュアップは不可欠です。中村彝アトリエで言えば、管理棟での「茨城県近代美術館」に関する展示をさらに充実させるなど。周囲に点在する大小の公園、河川や湧水（ポンプ？）、整備された水飲みも有り難かった。それと、新宿区と豊島区との区界を意識してしまう「ズレ」を感じました。区域を超えた、より広い視野での地域としての魅力発信の視点と工夫が求められます。広域的でかつウォーカブル・コンパクトなエリアのＰＲを。

●線でつなげていければ良いかと思いました。

●広義な関連イベントで、周知と集客を続けるしかないのでは。無料ではなく、３００円の入場料をとって多様な活動の予算の確保。似たようなエリア（田端文士村）と連携して告知、地域の空き家など、若い美大生やデザイナーと連携（家賃が高そうですが）。

●中村彝アトリエと佐伯祐三アトリエについては、現在のままの展示で十分。作家自体を知ることができるとても良い施設なので、長く継続される事を期待します。これらが町づくりにまで繋がるかと言えば、それは少し厳しいかも。

●アトリエ建築やその中の展示は面白いと思うが、平日の来館者がそう多いとは思えず、それだけのために人を常駐させて公開するのは難しい気がする。また、住宅地では地域との関係も希薄になりがちなので、ミュージアムとして利用するのと併せて地域施設としても位置付け、周辺の住民も活用できるようにするのが良いと思う。

●地域に点在する資源をあわせて考えようとしている取り組みがすでにされている中、更に活性化するには、小学校との協力でしょうか。子供たちの柔らない感性に「あなたの街は、こんなにすごい」と訴え、一人でも二人でも関心を持つ人数を増やすとか（既に、様々な取り組みがされている気もしますが・・・）。

中井の住宅地にひっそり残る旧島津一郎アトリエ

トキワ荘通りの旧百貨店を改装した昭和レトロ館

８■今回の企画全体に対する感想など

●作家のアトリエ建築を巡りながら住宅地を歩くという企画、それまであまり知らなかった作家について知ることができ、なかなか面白かったと思います。画家がアトリエを構えるということは、当時は周辺に絵になる風景があったのだと思いますが、現状では、なかなか絵になる街になっていないのが残念です。（ＫＴ）

●作家が、自分の働き場所にこだわりを持ち、さらに場所を選ぶという指向性から、このエリアのまちが選択され、良い建築ストックとしても残っていることは、特徴のある住宅地としての価値を示しているように思う。概ねまだ価値が保たれていると感じたが、決して良い方向に行く環境ではないのも事実で、とはいっても都市計画手法を使うには大げさで、維持してくことの難しさをあらためて感じた。（ＦＭａ）

●画家のアトリエという象徴的な建物の保存活用、流行作家の活動と生活の場を丸ごと保存した記念館、かつて多くの漫画家たちが暮らしたアパートの復元と商店街の様子まで記録する地域の取り組み、と作家と周辺のつながりをいかに意識させるかということを考えさせられました。猛暑のさなかにもかかわらず入念な準備をされた企画をありがとうございます。(MM)

●楽しい企画でした。ありがとうございます。落合、神田川と地形を感じる企画でした。目白は駅前に高層ビルがなく、山手線の駅前にしては珍しくゴチャゴチャせずに守られている。良い環境にあるのは、もともとおとめ山公園の運動に見られるよう意識の高い住民がいるのと西側の学習院や日本女子大といった文教地区の影響かと。文化的なギャラリーやいい感じのレストランやカフェ、洋酒屋などが減り、チェーン店に代わり地域の個性がなくなっているのは残念。駅が拡大していないため　まちなかのカフェなどが近く、人が多い新宿、渋谷、池袋を避けた打ち合わせの穴場として利用していました。（ＨＨ）

●目白駅から東長崎駅まで約１７㎞。足腰の障害のため歩幅が狭く歩数が多くなってしまうのですが、２万４千歩で完歩、帰宅しました。転倒しないように気を配っていたので、観察が多少おろそかになってしまいました。通り雨のあとで日差しを避けられてよかったと思います。懇親会を失礼したのは体力・気力の限界ゆえでした。お許しを。（蛇足）西武池袋線練馬駅から乗ったＦライナー「元町・中華街」行き快速急行は、副都心線経由、東急東横線武蔵小杉駅まで乗り換えなしの特急でした。無事帰宅の貴重なバックボーンになってくれました。各駅停車に乗り換え、大倉山駅で３０分余り待って、タクシーを奢って帰宅しました。１㎞弱、５００円でした。病み上がりのひさかたぶりのまち歩きを、無事完歩帰宅できたことをみなさまと自分に感謝します。（ＭＴ）

●全体をゆっくり歩いてみたいコースであった。都心に近いエリアにこのような落ち着いた瀟洒な住宅地があることに、今さらながら驚かされた。（ＫＨ）

●普段は普通に訪れる場所を、特別なテーマを持って歩くのはいつもと違って面白かったです。雨上がりで猛暑でなかったのは幸いでした。ありがとうございました。（ＦＭｉ）

●適度に休憩を組み込んでいただいたことで、暑い中、歩ききれました！　ありがとうございました。（ＵＴ）

●企画運営された人に、お礼申し上げます。（ＴＫ）

●共に歩き気兼ねなく意見を交換することができる、対面でのてくてくは素晴らしいと、改めて思った。芸術は私のエネルギー源、魅力的な企画をありがとうございました。（ＩＳ）

コーディネイターより■

今回の企画の契機は、新宿区歴史博物館（四谷）で、同じエリアの住宅地の中で３つの作家アトリエが保存公開されていると知ったことです。しかも豊島区のトキワ荘にも近いのです。オンライン企画で予定していたのですが、集合まち歩きとなったために、エリア内の見どころにも立ち寄ってのコース設定となりました。心配は今年の驚異的猛暑でしたが、当日昼の雨で涼しくなって助かりましたし、冷房の効いた各施設で十分に休憩をとったので、何とかコースを完遂できました。原さんには当日追加訪問のご提案もいただき、感謝します。皆さんに好評でしたので、今後も同様の企画を続けたいと思います。暑い中、ご参加くださり、ありがとうございました。（ＯＲ）

中村彝アトリエにて